



謹賀新年

本年もよろしくお願いいいたします

令和八年 元旦



新年明けましておめでとうございます。

今年も雪のない元旦で、宿南地区の皆様には、ご家族揃って穏やかな新春を迎えたこととお慶び申し上げます。

さて、世界一貧しい大統領と言われた故ホセ ムヒカさんが生前に「人生とは、短く、あっという間に終わってしまう、かけがえのない大切なものです。幸せとは何でしょう。音楽を聴いたり、美しい絵や景色を見たり、感動できること、互いに愛し合うこと、他者を思いやること、支え合い助け合って生きていくこと、そうした生き方の中にこそ真の「幸せ」があるのではないか。」と言われています。そして、私事ですが、昨年合唱団の演奏会で歌った竹内まりやさんの「いのちの歌」の歌詞（曲もですが）が、とても心に響きました。この二つの共通することは、人は一人では生きていけない、周りの人と助け合い寄り添って生きていくことです。これは、池田草庵先生の教えにも通じるところがあり、自治協の目指すところでもあります。

昨年10月から、宿南地区内を定期運行していたコミュニティーバス「ふれあい号」がデマンド方式となり予約をすれば、地区内の移動手段として非常に便利になりました。これまで、地区内の行事に行きたくても足がなく諦めておられた方も、ふれあい号を利用して、交流の場を広げていただければと思います。皆さんに多く利用してもらえるためには運転して下さる方を多く確保しておかなければなりません。こんな所にも助け合いの心が大切になって来ますので、ご理解とご協力をお願いします。令和7年度には、これからも皆様に参加いただける行事が計画されています。皆さんのが寄り添って助け合って暮らせる地域づくりに向けて、どんどん交流の場に参加いただき、令和8年も皆様が元気に明るく仲良く暮らせる地域づくりに積極的に参画いただけることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

宿南地区自治協議会 会長 維田 浩之



身边で見られる植物 ⑤

センダン〈センダン科〉

宿南の国道沿い円山川側には、鬱蒼と木が生えているところがあります。何種類かの木が生えていますが、葉が落ちた今の時期クリーム色の実がたくさん付いて目立つ木があります。センダンという木です。



元々は暖かい地方に自生する木ですが、庭木に使われるなどして各地に広がっているようです。この実は、薬用にも使われます。ヒヨドリなどは食べますが、人や犬には有毒なため、誤食は禁物です。



お知らせ

1月 21日 (水) 文化部会

1月 28日 (水) 福祉部会

2月 6日 (金) ボウリング大会参加申込締め切り

2月 8日 (日) 青谿書院書道会 別紙チラシ配布

クリスマス会 開催しました

12月21日(日)福祉部主催のクリスマス会をふれあい倶楽部ホールで開催しました。多世代49人の参加でした。地元音楽愛好家の皆さんによる生演奏と歌で楽しい時間を過ごし、参加者によるハンドベル演奏あり、ゲストのALTの先生とおめでとうクリスマス(We wish you a Merry Christmas)を英語で歌い、ケーキ・ジュースをいただきました。「お正月」を歌って終了しました。



冬休み書院塾 (12月25日)



書き初め会 (1月5日)



草庵先生紹介

83



アメリカ留学を前に青谿書院を訪ねてきた浜尾新(右から2人目)と懇談する草庵

宮崎和夫さん作

豊岡藩の多くの藩士も草庵に学んだ。

「(前略) 豊岡藩の久保田生入門する。舟木、吉村も来る」(元治元(1864)年2月20日)

この時入門した久保田生というのは久保田譲之助(譲)で、久保田3兄弟の次兄である。同じ年に長男精一郎(精一)も青谿書院に入門した。数年後、末弟の貫一郎(貫一)も入門した。後に、長兄精一は豊岡に宝林義塾を開き、後進の教育に当たった。次兄譲は文部省に入り、文部次官などを歴任。その後に貴族院議員となり、文部大臣にもなった。末弟貫一は外務省に入り、後に埼玉、和歌山、鳥取の各県知事などを歴任した。この日一緒に来た舟木は豊岡藩の家老である。また吉村は、吉村寅太郎のことで、草庵に学び第四高等学校(金沢大学の前身)の校長となつた。

多くの豊岡藩士は青谿書院まで来て塾生として学んだが、豊岡藩校の稽古堂だけで学び、草庵に師事していった人たちもいた。浜尾新もその一人であった。

浜尾は早くに父を失い、母1人子1人の家庭で青谿書院に入る余裕がなかった。しかし、草庵が稽古堂で講義を熱心に受け、草庵を尊敬していた。豊岡藩では優秀な若者に奨学金を出して遊学させる制度があり、明治が始まったばかりの年に浜尾はその一人に選ばれた。この時は、浜尾と一緒に、吉村寅太郎、久保田譲も選ばれている。(青谿書院開塾150周年記念誌中、宿南保著「池田草庵と豊岡藩」から)

東京で学んでいた浜尾はアメリカ留学を決意し、その前に母に会いに帰郷、青谿書院に草庵を訪ねた。「早起き。休講日。豊岡久保田精一郎来て話す。浜尾新も来る。いろいろな雑話をする(後略)」(明治5(1872)年11月1日)

アメリカ留学から帰国した浜尾は、東京大学の初代総長加藤弘之(出石藩出身)を助け、自身も総長を2度にわたり務め、その後昭和天皇の教育係や枢密院議長などを務めた。

青谿書院には、豊岡藩士21人の手紙が146通残されている。それらは師である草庵に、幕末から明治にかけての自身の現況を報告し、今後の指導を受けようとする文面である。

池田草庵先生に学ぶ会